

令和6年度奈良県総合教育会議 = 議事概要 =

日 時：令和6年10月23日

9：30～11：00

場 所：奈良経済会館 5階 大会議室

出席者：別紙のとおり

〔知事挨拶〕

○山下知事

- ・教育は我々大人が最も力を傾注しなければいけない分野と考えている。
- ・知事就任以降、経済格差により高校進学の道が狭められないように私立高校を実質無償化し、教育環境の改善のために県立高校のトイレ改修、空調設置を推進している。
- ・自治体の首長の役割は、ハード面や人員面を充実させることが基本的な役割と認識している。教育委員会制度は、教育は政治から一定距離を置くべきという考え方のもと出来た制度と認識しており、首長が教育内容に口出しすることは控え、現場の教員の主体性や自主性、創意工夫を尊重すべきと考えている。
- ・教育振興大綱は、法律上知事が定めることになっているため、策定にあたり3点意見を申し上げた。
- ・1点目、現在は、子離れ出来ていない親、親離れ出来ていない子どもが多いのではないかと感じており、自立した大人になれるように教育すべきではないかということ。
- ・2点目、自分で考え、学び、そして意見を述べられるような大人を育てていくことが必要ではないかということ。
- ・3点目、自分の幸せ、私利私欲を追求することだけではなく、より良い社会を作っていくために貢献できる人材を育成していく必要があるのではないかということ。
- ・こうした考え方が大綱の”はじめに”の部分に記載されている。
- ・大綱の内容は本日議論し取りまとめるが、私が提言したのは以上の3点で、それ以外は現場の先生方や教育委員、顧問の先生方の意見を尊重して決定していただければと考えている。

〔議題 第3期奈良県教育振興大綱の策定について〕

○地域創造部 子ども・女性局 教育振興課 森本課長

(資料1～4により説明)

〔意見交換〕

○大石教育長

- ・3月まで高等学校の教員として学校現場にいた際、生徒に裁量を与え、学校を良くするために考え、話し合い、行動する重要性を説いてきた。生徒が、守られる立場から支える側へ成長してほしいと考えていたが、第3期大綱の方向性を確認し、心強く感じているところ。
- ・この4年間、コロナウイルスの感染拡大により、その前後で随分学校は変わったと思っている。現在、1人1台端末や電子黒板を活用した授業が推進され便利になったが、その反面、人間の能力が損なわれる可能性を懸念している。便利さが人間の能力を代替しないよう、各校長先生には、これまでの長年のコミュニケーションが後退するのではなく、より広がった活発なものとなるよう、願っている。第3期大綱には教育DXの

推進が含まれており、このような課題も、反映されればありがたいと思っている。

○伊藤忠通委員

- ・子供たちが自立心を持ち、自分の頭で考え、自分の言葉で意見を述べる、人のためにもなるような大人になるという思いや、第3期大綱の内容に賛同する。
- ・教育委員会として年に1~2回学校現場を訪問し、子どもたちの端末活用の様子を見ているが、教育長から話があったように、対面でのアナログ的なやりとりが減少し、本当の教育になっているのかという懸念がある。
- ・5つの柱のすべてに関わっているのが奈良県こどもまんなか未来戦略であるが、子どもを真ん中に置くことは、その周りにいるのは大人である。大人が、生涯にわたって学ぶ、学ぼうとする姿勢を子どもたちに示すこと、そういう教育が大事だと思う。最近は学校や教師に期待したり、依存しすぎている。
- ・奈良県では全ての地域でコミュニティスクールが設置されたが、実際に機能しているかが問題。学校・家庭・地域が協働し、大人も子どもから学ぶという状況を作っていけば、奈良県の教育は格段に良くなると思う。

○伊藤美奈子委員

- ・大学で心理士になる学生を養成し、小・中・高の教育現場でスクールカウンセラーを務める中で、子どもたちだけではなく親の苦勞も実感しており、大綱が支えになることを期待している。
- ・大綱の5つ目の柱である、いじめや不登校に関して、いじめも重大事態が特に増えて大変な状況であることは理解しており、日々問題解決について考えている。
- ・2022年に改定された生徒指導提要では「発達支持的生徒指導」が重要視されている。問題が起こってから対応するのではなく、予防よりさらに前段階で、健康な子どもたちをより健康に発達する方向へ導くことに重点を置いた考えで、非常に重視されていると感じている。
- ・いじめ防止には、いじめを生まない環境づくりがとても大事で、被害者支援だけではなく、加害者を生まない仕組み作りが必要と感じている。いじめそのものは許されない行為ではあるが、いじめる子どもの背景に目を向けると、コンプレックスや自己肯定感の低さ、あるいは過去にいじめられた経験を持っている子もおり、叱って終わりではなく、ケアやサポートという視点が重要と感じている。
- ・不登校も、これまで問題行動の1つだったが、2016年の教育機会確保法が出来て大きな変化があり、社会的自立に向けて指導や支援していこうと言われている。ただ、不登校も起こってからではなく、基本は学校や学級がすべての子どもたちにとって安全・安心でいられる場所であることと、興味深い授業を作っていくことが大事と思っている。不登校も、発達支持的な視点で取り組むことが良いと考えており、大綱にはそれにとってもマッチした要素がたくさん含まれているので、大いに期待したいと感じている。

○三住委員

- ・第2期大綱の「本人のための教育」という文言が、第3期大綱には出てこない。「本人のための教育」は、本人にとってプラスであり、社会にも発展をもたらすものであることから、第3期大綱にも「本人のための教育」ということを、入れていただけないかというのが1つの意見。
- ・生きる力を作るということは以前から言われているが、生きる力とは、幸せをつかむ力である。幸せをつかむ力は、個人の幸せをつかむ力、人を幸せにする力、社会を幸せにする力の3つが合わさって、自分の幸せ・社会の幸せになる。個人の幸せをつかむことももっと肯定した上で、他人や社会の幸せを作ることも重要というような表現にしてもらえたらと思う。
- ・人を取り残さないという点で、近年は猛暑のため、夏は子どもが外で遊ぶ場所がない。小学校のプールに屋

根をつけて、遊べる場所を作ること考えていただけないかというのが一つ。

- ・教育の体験格差ということをよく言われている。裕福な家庭の子どもは多くの経験を得る一方、そうではない家庭の子どもは放置され、地域クラブに入らずゲームばかりしている。子どもの時の経験、子ども同士で遊んだ経験というのは大変貴重であり、そういう子どもたちを地域クラブに入れてあげるような、全ての子どもに体験機会を提供する何らかの支援が必要と考える。

○田中委員

- ・郷土奈良に誇りをもつ教育が掲げられているが、誇りという、自信や自尊心になるのかもしれないが、子どもたちが自分の考えや意見を自分の言葉で伝えることに関して評価が低いというデータがあり、気になっている。県民性として、おとなしい、穏やかとか、良く言えばそういうことだが、グローバル化する中で、この穏やかやおとなしいということでは、もうやっていけないのではないかと考えている。自分の思っていることを人前でちゃんとと言えるという、その能力を伸ばしていただいたらありがたいと思う。
- ・山口県の錦帯橋へ行った際、観光ボランティアガイドの方が、我がまちのことを人に話したくて仕方がないという光景を目にした。どうい教育をすれば、このように誇りをもって我がまちを語れるのか。観光に携わる者として非常にうらやましく感じた。

○松本顧問

- ・教育論そのものは先生方がおっしゃった通りだと思うが、奈良県の教育として、私は奈良県民ですと誇りをもつための教育をどうするかということが大事。
- ・大和の国は日本でこれが一番いいんだ、世界でこれだけ特色があるんだということ、そして我がまち奈良、あるいは奈良県民ということ十分に認識できるような教育をして欲しいと思う。

○谷口顧問

- ・全体的な方針については正しいと考える。
- ・その上で、奈良は日本最初の国際都市であり、その魅力を教えていくことが大事である。奈良公園の外国人観光客の多さは当たり前になっているが、なぜ外国の人が奈良を魅力的に感じるのか、噛み砕いて教えることが重要。きちんと一つ一つ教えていかないと、なかなか理解されない。
- ・大綱の内容を、現場の先生がどう具現化するか。自分で考える力をつける方法を示す必要がある。高専では、「あなたがやってみることは誰かからありがとってもらえるか」と問い、考えるきっかけを作っている。
- ・私は、「落ちこぼれ」という言葉をなくす取り組みをしているが、どんな世界でも、一部の人はうまく適応できないことはある。その時、仲間を作ることが非常に重要。仲間と教え合うことでレベルが上がっていく。
- ・誰一人取り残さないという言葉も、受け身で考えたら駄目で、お互いに助け合い、みんなと一緒にやるという意味だと教えていくと良い。そうすると、子どもたちは随分変わってくる。
- ・勉強は、自分で興味を持って、自主的に行うことで身につくもの。この考えを実現するために、現場の先生や子どもたちと一緒に考えていくのが良い。
- ・日本人の良いところは、相手の立場を考えて自己主張する点であり、相手の立場を考えつつ、意見を伝えるといった表現が良いだろう。

○三住委員

- ・本を読むことは、体系的に一貫した思想を見ることになり、大変有意義である。統一した思想を見て、併せて

- ネットで関連知識を広げることで伸びていく。朝読や、ホームルームで読書の時間を確保することが重要。
- ・統計では読書時間が減少しているが、読書体験は人生の宝であり、毎日 10 分ずつでも読書をさせるべき。

○伊藤忠通委員

- ・柱の 5 番目、誰一人取り残さないということについて、谷口顧問の話にもあったように、仲間を作るということは大事なことだと思う。例えば定時制の子どもたちは色々な課題を抱えていて、その課題を人前で発表されたりしているが、仲間と話し合いをすることで、心のつかえがとれて楽になると思う。子ども同士でも、先生や家族でも、そういう話が出来た機会や居場所を色々な所で作ってあげていけば、教育効果も現れると思う。

〔議題 その他〕

○山下知事

- ・全国学力・学習状況調査を今後も続けるべきか、全国知事会から国に提言を出そうという動きがあり、出席の方々の意見を伺いたい。
- ・この調査は、国が約 40 億円をかけ、外部委託で実施されている。教育委員会事務局の事務負担はないようであるが、現場の先生からすると、貴重な授業の時間が減ることにはなるのかなと思っている。
- ・調査結果が、これまで奈良県の教育にどうフィードバックされてきたのか。奈良県の教育にどう活用され、どのような成果があるのか。実例があれば、教育委員会から教えて欲しい。時間と費用をかけてやるだけの価値があるか、ご意見をいただきたい。

○大石教育長

- ・全国学力・学習状況調査は、毎年全国悉皆で中 3 と小 6 の子どもたちに行っているもので、義務教育の質を保持し、成果や結果を教育施策に反映していくこと、学校の教育指導や学習状況の改善を目的としている。
- ・調査結果を受け、課題の抽出と分析、それを踏まえた指導方法や指導の改善を学校に展開している。
- ・調査を受ける中 3 と小 6 の児童生徒は、すぐに卒業するため、具体的な成果や効果を測ることは難しい。

○山下知事

- ・個々の生徒への指導は、日頃の定期テストの結果に基づいてもできると思うが、県全体の学力傾向が判明した場合、教育委員会として対策を講じることはあるのか。

○大石教育長

- ・結果を分析し、どういう事業をしなければならないのかを模索し、新規事業の提案等を行っている。あるいは、オンデマンドで先生方に研修してもらおうようなものを作ったりということを行っている。

○山下知事

- ・教育長の個人的見解としては、今後どうしていくべきだと思うか。

○大石教育長

- ・奈良県の課題は全国と類似し、毎年大きくは変わらないため、目的を明確化すれば、毎年悉皆でなくてもいいかなというのが個人的な意見。

○谷口顧問

・良かったところ、悪かったところを比較・解析し、どう活用するか検討いただくのが良いと思う。

○伊藤美奈子委員

・奈良県は、いろいろなデータを1ヶ所で集約して分析できるシステムがあると聞いているので、例えば地域性と学校・家庭環境の関連を分析するなど、活用の仕方を考えていただきたい。

○田中委員

・悉皆調査には疑問があるが、課題を知るといった点で、定点観測は必要だと思う。他府県と比べるわけではないが、奈良県の資料が全くないというのはいかがなものかと思うし、どういう形で活かされていくのかということ考えた方が、より有効ではないかと思う。

○伊藤忠通委員

・学力調査は、学ぶ力ではなく、知識力に焦点をあてており、学力の本当の意味を測るよう、中身を見直した方がいいと思う。そして、活用方法を考えていくことが大事かと思う。

[知事総括]

○山下知事

- ・色々ご意見をいただいたので、私から感想を申し上げる。
- ・伊藤忠通委員からは、生涯学習の分野にもっと力を入れるべきだという意見があったが、私も全く同感。生涯学習の進捗に関するKPIがあってもいいとは思ったところ。
- ・伊藤美奈子委員からは、主に5番の柱に関係した意見があり、KPIとしては①と②が関係している。
- ・KPIの②に関連したこととして、フリースクールなら通えるという子どもの学びの機会を保障することは重要と考えている。フリースクールに関する実態調査はこれから進めるところであるが、フリースクールは行政からの支援はあまりなく、家賃や人件費などをどうやって捻出しているのか心配。費用を全部ご家庭の方からいただくお金で賄っているのか、それがご家庭の負担になっているのではないのかということも非常に興味がある。三重県では、県がフリースクールに対して全面的にバックアップしていこうという動きがあり、実態調査の結果如何によっては、フリースクールの支援ということも視野に入れるべきではないかと個人的に思っている。
- ・三任委員から色々ご意見をいただいたが、自分の幸せを追求するというのは当然のことでありそれが前提ではあるが、”はじめに”の第2パラグラフの2行目を、例えば、自分の幸せを追求することはもとより、という表現にするなど、自分の幸せを追求することをもう少し肯定するような文章にすることを検討させていただく。
- ・プールに庇をつけるというのは、大綱に盛り込むようなことではないと思うが、また教育委員会の方にヒアリングをしたいと思っている。
- ・地域のスポーツクラブ等に入れないうち子どもたちへの何らかの支援ということに関して、指標を盛り込むことが可能か検討させていただく。
- ・田中委員から大変貴重なご意見をいただいたが、冒頭の挨拶で私から意見を述べる力の重要性というのを言わせていただいたとおり、私も全く同感である。ただし、それをKPIにするのはなかなか難しいと思う。
- ・松本顧問、谷口顧問からは、郷土愛に関するお話があったが、目指す教育の方向性の副題として、郷土奈良に誇りをもつ教育について記載されているところ。ご意見の趣旨はここに盛り込まれていると思うが、具体的にKPIという形で盛り込み、後から検証することができるかについては、検討させていただく。

○総合教育会議 名簿

知事	山下 真
教育長	大石 健一
教育委員	伊藤 忠通
教育委員	上野 周真(欠席)
教育委員	田中 郁子
教育委員	伊藤 美奈子
教育委員	三住 忍
顧問	松本 紘
顧問	谷口 功

・他、事務局として県職員が出席